

公益財団法人国際医学研究振興財団
2023 年度 事業計画書

I 基本方針

我が国から発信される医学研究は、国際的にも高く評価されているところである。このことは山中伸弥教授、本庶佑教授などがノーベル賞の医学生理学賞を受賞されていることからよく伺い知ることができる。これらの研究の質の高さは、研究者自身の能力、努力によるところが極めて大きいのは言うまでもないが、その方々を様々な分野の研究者が支えてきたことも大きいと思われる。基礎医学、臨床医学の発展には研究者の裾野を広くすることも重要で、特に若手研究者の育成がその中心的課題である。

近年日本から発信される研究論文数は、欧米や中国に比べ増加率が極めて低いことが指摘されている。さらにいわゆる一流誌への掲載論文数の低下が著しく、これも将来のことを考えると大きな問題である。ノーベル賞受賞者は30～40歳で対象となる研究論文を発表していることが多く、20、30代での研究がその元となっている。本財団は、この世代の研究の支援活動の一助となるため設立された。

本財団が取り組む活動は、第一に、海外で研究を志す、意欲ある若手研究者に対する海外留学費用の助成である。海外で研究成果を上げるには1年間の助成では十分と言えないため、本財団では、原則として、助成期間を2年間とする。

第二に、医学に関する分野の国際シンポジウムについても2020年度から助成を開始した。この他、我が国の若手の医学研究者の海外研究発表に対する助成についても順次、拡充を図る。

本財団の活動の実施に当たっては、支援先を的確かつ厳正に選定する必要があるため、高い知見を有する学術経験者を招聘し、的確かつ厳正な選定が実施できる体制を構築している。

また、今後、株式の受贈による配当収入により安定財源を確保し、本財団の活動を永く継続することを目指す。

II 当事業年度の施策

(1) 海外留学助成

当事業年度においても引き続き、我が国の医学研究者の海外留学に対する助成を行う。

助成対象者は40歳未満の研究者（女性の場合は45歳未満）で、助成予定件数は5件、助成予定額は、1件1年当たり最大600万円とし、これを2年間支給する。助成の応募に当たっては、所属機関の長の推薦書を要するものとする。

また、応募から学術委員による選考までのすべての作業はWebシステムにより実施する。

助成の募集期間は、6月から8月、学術委員による選考期間は9月から10月を予定する。理事面接を経て12月に理事会決議により助成対象者を決定し、助成金贈呈式を実施する。

また、前事業年度の採択者に対する第2年度目の助成金の支給を行う。

(2) 国際シンポジウム開催助成

当事業年度においても引き続き、国内および海外で開催される医学に関する分野の国際シンポジウムに対する助成を行う。

助成対象者は国内の大学または研究施設などに所属する医学研究者で国際会議の開催責任者（主宰者）とし、海外開催の場合はコ・オーガナイザーとしての応募も受け付ける。助成予定件数は国内開催分1件および海外開催分1件、助成額は国内開催分300万円および海外開催分150万円をそれぞれ上限とする。

助成金の募集期間は、8月から12月、学術委員による選考期間は12月から2024年1月を予定し、同年2月に理事会決議により助成対象者を決定する。

当事業年度においても、WEBによるオンライン会議方式による開催についても助成の対象とする。